

新宮山彦ぐるーぶ第1947回
大峯奥駈道・太古ノ辻周辺の笹刈作業

◇実施日；2017年09月24日(日) 晴後曇り
◇参加者；川島 功、沖崎吉信、児嶋道夫、上村洋司・和美、
畑林清子、梶野照雄、山口泰宏。(前鬼・小仲坊から)
生熊敏男・千満子、石橋哲郎・隆子。(太尾登山口から)
椎木 堯(大峯山寺戸閉に参加・逆峯縦走中)。13名。

笹刈に特化した作業は記憶がないし、千日刈峰行以来かも知れない。青木君が釈迦ヶ岳近辺の姫笹(ミヤコザサ)の繁り具合が気になり、以前よりほぼ単独でガンバツていた。個人的応援は少々あった様だが、会の行事として取り上げる予定はなかったが、今年7月、楊子ノ宿に向いた時の釈迦ヶ岳以北の孔雀岳・仏生ヶ岳近辺の奥駈道の笹の繁り具合を見て、笹刈を1年か2年やらなかったら道が消えると思った。

山上ヶ岳山頂のお花畑は、笹畑になってしまったし、大峰では1,400m位から1,700m位の間の疎林帯では、笹が相当繁茂しているようだ。

現状を見てその必要性を感じて、会行事として取り上げた。

当日は、12名が参加。和歌山市から参加の石橋さんご夫妻と旭口で合流する生熊さんご夫妻は、旭(太尾)登山口から登り太古ノ辻で合流する、残り8名は前鬼からとした。

林道ゲートは、五鬼助さんに事前に連絡して開扉をして頂いたので、8時半前に前鬼・小仲坊に8人が集結。

皆さんそれぞれ鎌や剪定鋏を持参の外、ヘッジトリマー(電動バリカン)3台を準備した。内2台は充電式バッテリーであるのに対して、児嶋さん個人所有の1台は、発電機(7.5kg)を作動させる事から発電機を背負子につけている。こりゃ大変だと思ひ、ザツクのみ梶野君にお願いした。

五鬼助さんから椎木さんが山上ヶ岳・大峯山寺の戸閉めの帰路、今日ここに泊るので、ゆっくりやって来てくれとの話もあって、8時半過ぎに出発した。



小仲坊で登山準備



本日の作業打合せ



30分程歩いて2回目の渡渉した所で1回目の小休止。6〜7分でスタートし10分以上15分位登ったか、どうも様子が違う。先日の台風で谷の様相が変わってしまったのかとも思ったが違う、ルートを間違えたようだ。向って右の尾根に登るが此処も違う、上村夫妻は元へ戻ってみると下へ。他は右へ右へとトラバース気味に移り、やっと登山道へ合流した。やれやれで小休止。



石柱道標で休憩



登山道に戻り休憩



木段853段の第1段目

40分近くロスしたか、通り慣れた道でもこう言うことが起きる良い教訓だ。

尚、この日梶野君は、木段総数853段の途中100段目、200段目と表示しているとの事で、段数標識設置のため、二人が最後尾を歩く。

木段を終える頃から笹が出て来る。先行組がきれいに刈っているが、刈り残しを剪定鋏で処理しながら後を追う。

正午、やっと太古ノ辻へ、昼食とした。



二つ岩

昼食中、生熊さんから「あまりにも遅いので何かあったはず」と心配した。

太古ノ辻手前の笹刈

太古ノ辻に到着



生熊・石橋さん達と合流



太古ノ辻に全員合流し昼食



椎木さんは14時〜15時頃来るか？ などなど話の最中の12時過ぎ、椎木さんが姿を見せた、いや早い、戸閉め後、昨晩は弥山に泊り、早朝4時前に発った。護摩の勤行をされ8時間位でやって来られた。笹刈を千日刈峰行と捉え手伝うとのこと。

椎木行者は、本日は小仲坊宿泊、明日は行仙宿に宿泊して、逆峯奥駆行され熊野三山を歩いて参詣されるとのこと。



椎木行者が到着



本日の笹刈作業者



笹刈作業中

昼食後、川島・児嶋・山口・上村夫妻の五人は、天狗山方面へ、沖崎・梶野・畑林・椎木・帰路になる石橋夫妻・生熊夫妻は、深仙宿方面への笹刈を行い、14時30分には太古ノ辻へ戻り、下山を決める。

12時半過ぎから持場に向い作業を開始する。

深仙宿組は、ヘッジトリマー1台を沖崎・生熊・椎木の三人が使い分ける、いやはや早い。平坦になる所は小走り状態で刈れる。

女性軍は刈り払い後の笹の整理をやってくれる。ホウキでなく熊手の方がいいようだ。次回は熊手必要の話も。

千日刈峰行を始めた頃の玉岡さんのレポートには、手鎌で始めましたが、その後草刈機を導入、その効率の良さとスピードの早さから草刈機が主流になったとある。大峰は広いし長い、今の笹の状

況から笹刈も年中行事の一つとなるかも。



笹刈前の状況



大日岳鎮場への笹刈



椎木・梶野氏笹刈終え到着



蘇莫岳側の業者者



太古ノ辻に戻る



太古ノ辻から下山

天狗山組は、川島は背負子の発電機を担ぎ、先行して上下に延長コードの延びる地点で発電機を置く。児嶋さんがヘッジトリマーで刈る間に川島は剪定鋏で刈っていたが、児嶋さん発電機を担ぎながら笹刈される。川島・山口さんは、刈り残しと児嶋さんの刈った笹を処分。最後の上村夫妻は、ヘッジトリマーで最終仕上げをして下さる。

蘇莫岳を越え石楠花岳鞍部手前で引き返し、14時15分頃に

太古ノ辻に戻った。

深仙宿迄笹刈を終える。椎木・梶野両人で大日岳下へもきれいに刈ったとのこと、予定の14時半過ぎに全員が戻り、本日の作業は終了した。

下山する頃からガスがかかり出すなか、前鬼への下山も長い、二つ岩で小休止、勤行。前を歩く児嶋さんも発電機が重そうだ。

1時間40分を要して、やつと16時10過ぎに小仲坊に着く。椎木行者の導師にて、行者堂で無事下山等の勤行。

五鬼助さんから冷たい缶ビール・ジュースを差入れして頂き、乾いた喉がいやされた、本当にありがとう。

あーあしんどかった。



二つ岩で小休止・椎木行者勤行



行者堂で下山勤行



五鬼助さんご夫妻・椎木さんに見送られ、16時半過ぎに小仲坊を発ち帰路へ

行動タイム

新宮6:25↓8:20前鬼・小仲坊8:40↓9:10休憩↓登山道外れ登山道に戻る9:55↓10:35二つ岩10:40↓11:55太古ノ辻(昼食)12:35↓2班に分れ笹刈作業↓14:25太古ノ辻14:35↓15:15二つ岩↓16:00川渡る↓16:10小仲坊16:35↓18:20新宮。

(記：沖崎、写真：梶野・川島)

十津川旭口(太尾)登山口班

◇参加者；石端哲郎・隆子、生熊敏男・千満子。

4名。

今回の作業予定は、前鬼から入山となっていたので我輩の足では無理と不参加を決めていたが、旭口からなら我がペースで行けるだろうと思っていたら、和歌山の石橋夫妻も参加すると言うので、国道168号線・十津川旭口で待合わせる。

途中1台をデポし太尾登山口駐車場へ、既に7〜8台が停まっている。

我々四人は、七時十五に多少の鎌・ノコギリ等を持って登り出す。程なく倒木があり石橋さんが処理してくれる。

この辺りから足の速い石橋哲郎さんと生熊千満子二人に、本隊(前鬼班)と太古ノ辻での待合わせ時間に間に合うよう先行してもらおう。

千丈平を過ぎた辺りで雲行きがあやしくなってきたが、伊富喜秀明碑付近では、その心配もなくなった。

先行の二人は、十時二十分頃に太古ノ辻に着き、前鬼班到着まで付近の姫笹(ミヤコザサ)を鎌で刈りながら待っていた。遅れた二人が十一時に着いたが、前鬼班の姿が見えない。

時刻は既に十二時前だ、早朝和歌山を出た石橋夫妻の事もあり、四人は昼食をしながら待つ事にした。

到着しない、どうしたんだろう何かハプニングかと、いろいろ詮索しながら待っていると、程なく一人二人と上がって来た。登山道の笹を刈りながらやって来たのだ。聞けばルートを間違うハプニングがあったとのこと。

全員が揃い昼食後直ちに作業にかかる。この地点から南北二手に分かれて作業する事になり、旭口班四人は帰り道でもあり、ザックを背に北方向(深仙宿)に加わる。

来る途中手鎌で歩きながら、膝丈程伸びた笹の頭を叩き払いながら来たが、目に見えての効果は無かったが、電気バリカン(充

電式ヘッジトリマー)はずい。

この笹刈りにピツタリで、深仙宿近くで持たしてもらい、使って効果を実感した。

帰り時間もそろそろで前鬼班と別れて、我々四人は深仙宿小屋を午後二時半に発ち、登山口駐車場に五時過ぎに降り立ち、午後六時にそれぞれ帰路についた。

行動タイム

那智(和歌山)4:30↓登山口7:15↓10:20(11:00)太古ノ辻12:35
↓笹刈作業↓深仙宿14:30↓17:15登山口18:00↓20:00那智(和歌山)。
(記；生熊敏男)